



今月号のテーマは「救急車の適正利用」と「脳の健康法」です。どちらも身近な事柄ですが、意外と普段考えることなく過ごしているかもしれません。あまり教わることもないかと思いますので、今月号が考える機会になれば幸いです。

救急車の適正利用に御協力をお願いします

はじめに

あなたの大切な人が倒れた時、もしも救急車がすぐに来てくれなかったら？

救急車は急いで病院に行き医師の診察や処置を受けなければならない時に利用する、いのちを守る車です。救急車の適正利用に御協力をお願いします。



救急車が足りません！！

相模原市の令和5年の救急出場件数は、43,696件と過去最多になりました。特に、猛暑となった昨年夏は、すべての救急車が出場してしまう事態も発生しました。

本市では、消防隊員等により臨時的に非常用の救急車を運用するほか、救急車の到着に時間がかかると判断した場合に消防隊を出場させるなどの対応を行いましたが、このままでは救急車が足りなくなる事態が発生するかもしれません。

また、救急出場件数の増加に伴い、救急車の現場到着にかかる時間が年々増えています。

表1

令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
8分16秒	8分23秒	8分54秒	9分30秒	9分51秒

不適切な利用ってどんなもの？

救急車を利用すべきではなかった事例として、次のようなケースがありました。

- ・救急車で行けば待たずに診察してもらえと思ったから。
- ・病院に行く手段がないから。
- ・調理中に指先を切った。血は止まったけど念のため救急車を呼んだ。

救急車を呼ぼうか迷ったときには…

全国版救急受診アプリ（愛称「Q助」）

該当する症状を選択していくと、緊急度に応じた必要な対応（「今すぐ救急車を呼びましょう」、「できるだけ早めに医療機関を受診しましょう」「緊急ではありませんが医療機関を受診しましょう」、「引き続き、注意して様子を見てください」）が表示されます。その後、医療機関の検索（厚生労働省「医療情報ネット」）や、受診手段の検索（一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会「全国タクシーガイド」）を行うことができます。是非、御活用ください。

全国版救急受診アプリ



スマートフォン用アプリ



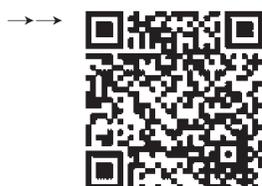
総務省消防庁「Q助」案内サイト

<https://www.fdma.go.jp/mission/enrichment/appropriate/appropriate003.html>

おわりに

救急車が必要な人のところに早く到着できるよう、救急車の適正利用に御理解・御協力をお願いします。

また、救急車到着までの間に家族や同僚の方などその場に居合わせた人（バイスタンダー）ができることがあります。あなたの大切な人のいのちを守るために、応急手当を学んでください。応急手当講習会の御案内はこちらです。



(相模原市消防局 救急課)

